

# 主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名		部名	教育委員会事務局
	17076	学校図書館支援事業		課名	学校教育課 教育支援G
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実		財務科目	01:一般会計
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長			10:教育費
	施策の方向	03:子どもたちの育ちのための学びの展開			08:教育研究費
戦略プロジェクト	05:「そして、親となるまち」プロジェクト		01:教育研究費		
事業予定期間	H 21 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等	子どもの読書活動の推進に関する法律		

② 目的・概要	対象	市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者
	目的	児童生徒の読書量を増加させるとともに、読書の種類の幅を広げ、質を高める。また、児童生徒の主体的な情報活用能力を高めるとともに、児童に家庭での読書習慣を定着させる。
概要	市内小中学校14校において、学校司書等を配置し、図書環境整備と子どもの読書活動・学習活動の支援を行うとともに、学校図書館を活用した授業の推進に取り組む。さらに、学校図書館情報システムを活用し読書活動の推進を図るとともに、市内図書館・学校図書館のネットワーク化を推進する。また、家庭での読書環境充実のため、市内幼稚園(主に年長)及び小学校(主に低学年)でファミリー読書リレーを実施する。	

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置</li> <li>○学校図書館活用アドバイザーの派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレーの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置</li> <li>○学校図書館活用アドバイザーの派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレーの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置</li> <li>○学校図書館活用アドバイザーの派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレーの実施</li> </ul>	
	年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置(小学校11校中学校3校)中:亀山・中部・関(週2日)小:川崎・井田川・東・西(週2日)他校(週1日)</li> <li>○学校図書館活用アドバイザー年間168日、1日あたり4時間派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレー年間10週実施。市内幼稚園小学校で688家族が参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置(小学校11校中学校3校)中:亀山・中部・関(週2日)小:川崎・井田川・東・西(週2日)他校(週1日)</li> <li>○学校図書館活用アドバイザー年間168日、1日あたり4時間派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレー年間10週実施。市内幼稚園小学校で609家族が参加。</li> </ul>		
事業費	計画額	事業費	12,000千円	12,000千円	12,000千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	11,496千円	11,993千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費 ①	11,188千円	11,740千円	
		国庫支出金			
県支出金					
地方債					
その他					
人件費	総人件費 ②	768千円	778千円		
	一般職員	768千円	778千円		
	所要人員	0.10	0.10		
	臨時職員等	0千円	0千円		
	総コスト(①+②)	11,956千円	12,518千円		
受益者負担率	0.0%	0.0%			

			平成29年度	平成30年度	令和元年度
④ 指標	①	名称 学校図書館を活用し、月3回以上授業を実施した学校数	計画値 13	14	14
		活動	実績値 14	14	
			単位 校	校	校
②	名称 児童生徒の読書数 児童生徒の1ヶ月の1人あたりの図書貸出数	計画値 8	9	10	
		実績値 10	10		
		単位 冊	冊	冊	
③	名称 授業時間以外での読書状況 1日にわずかな時間であっても、読書をする児童生徒の割合 「全く読書をしない」以外の子どもの割合	計画値 小70中55	小73中58	小75中60	
		実績値 小73中54	小80中61		
		単位 %	%	%	

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 「亀山市ファミリー読書リレー」の取組は定着してきているが、アンケートを見ると、家庭での読書習慣の定着や読書の幅をひろげるといった取組のねらいが保護者に十分伝わっていないところがあるので、「亀山市ファミリー読書リレー」のねらいを幼稚園や小学校担当者、保護者に伝え、家族ぐるみでの読書習慣づくりを啓発していく。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 「亀山市ファミリー読書リレー」の取組を始める前に、各園、各校で、たよりを配布し、就学前、低学年の時期に、子どもの読書環境を整え、読書の楽しさを知ることが、読書習慣の確立につながるという「亀山市ファミリー読書リレー」の目的を各園、小学校担当者、保護者に伝え、家族ぐるみでの読書習慣づくりを啓発した。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 学校図書館情報システムの運用が定着してきており、貸出業務、統計処理を円滑に行えた。毎月の図書利用状況を各校で共有し、貸出冊数の目標値を決める、児童生徒に目標を持たせる等の取組を行った。学校司書の配置充実により、図書館担当教員と連携した読書指導、図書館活用指導、図書の選定、収集等を行った。また、学校図書館活用アドバイザーによる授業を計画的に行ったり、図書館を活用した授業づくりについて教職員に提案した。 4幼稚園、11小学校の年間計画に「亀山市ファミリー読書リレー」を位置付け、年間10週程度実施した。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 学校図書館活用アドバイザーによる授業は子どもたちの言語能力、情報活用能力を高めるとともに子どもが力をつけることのできる授業のモデルを教員に示すことにつながった。また、児童生徒の平均貸出冊数は、平成29年度は81.1冊、平成30年度は83.4冊であり、読書習慣の定着、授業での図書館活用が進んだ。授業時間以外にも小学校80%、中学校61%の児童生徒が読書をしており、読書量が増加した。 亀山市ファミリー読書リレーに、幼小合わせて609家族が参加した。アンケートでは、「読書リレーを楽しみにしている」の項目が84.5%、「コミュニケーションの時間が増えた」の項目が82.5%と肯定的意見である。	A 十分な成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 更に読書習慣の定着を進め、読書の種類の幅を広げ質を高めていくことが必要である。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 家庭での読書習慣確立に向け、亀山市ファミリー読書リレーを継続実施する。便りや図書館協議会で取組のねらいを幼稚園、小学校担当者、保護者に啓発する。 学校図書館活用アドバイザーと学校司書、図書館担当の連携を進め、読書習慣の確立、学校図書館活用に向けて取り組む。 図書館協議会で学校間の活動交流や情報交換を進め、各校での取組に活かす。 様々な種類の本に親しむために、亀山市読書チャレンジの取組を始める。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 子どもたちの読書習慣をつけることで、言語能力育成の基盤をつくり、読解力の向上につなげることができる。	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援グループリーダー 平野 朋希
【最終評価者】	教育委員会事務局 学校教育課長 西口 昌毅

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A			
	成果	A	A			